

ゼネラルパッカー通信

証券コード 6267

Investors' Guide

2021年7月期(第60期)

2020.08.01→2021.07.31

世界の品質を
”包装“で守る




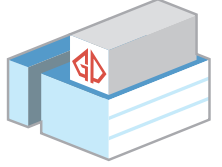

包装システムのトータルプランナー
GD ゼネラルパッカー株式会社

社是 創造と挑戦 — 感ずる、信ずる、行動する —

経営理念 わが社はつねに、独創的な技術を活かし、顧客の要請に応える高品質な『商品』を提供する。

ゼネラルパッカーは、包装システムの課題解決型メーカーです。

GOTグループ

 <p>当社</p> 	<p>包装機械</p> <p>各種自動包装機械及び周辺装置の製造・販売</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当社主力の包装技術 ・ガス充填包装 ・チャック付スタンドパウチ包装 	<p>生産機械</p> <p>食品製菓機械の製造・販売</p> <p>オサ機械株式会社  Since 1932</p>
--	---	--

魅力1 卓越した技術力

魅力2 優れた人材

新たな包装技術の創出を進めつつ、汎用性の高い製造技術を蓄積。また、全従業員のうち1/3が開発部及び技術部に所属、トータル人事システムに基づき、業界認定によるスペシャリストを育成しています。

魅力3 既存分野での高いシェア

小麦粉、かつおパック、かち割り氷など、多くの分野でのトップシェア獲得が安定した収益基盤につながっており、当社は上場以来赤字がありません。また、オサ機械はチョコレート製造機械分野でトップシェア。

魅力4 新規分野・海外分野への成長

新規分野の開拓による事業領域の拡大と海外マーケットでの成長を続けています。

魅力5 安定した株主還元


DOE2%以上の安定配当を続けています。

[▶P4へ](#)

当社グループのお客様 主要ユーザー


工場 

食品分野	化学分野
医薬品分野	その他

店舗 

- ・スーパーマーケット
- ・コンビニエンスストア
- ・ドラッグストア
- ・ホームセンター等

<p>食品分野</p> <p>キャンディ ナッツ類 お米・米菓 パン粉 小麦粉 ドリップコーヒー 花かつお お茶 チョコレート ふりかけ かち割り氷 健康食品</p>	<p>化学分野</p> <p>粉末洗剤 肥料</p>	<p>その他</p> <p>ペットフード 野菜・花の種</p>
--	-----------------------------------	--

病院 

<p>医薬品分野</p> <p>輸液パック カテーテル 粉末薬品</p>

厳しい事業環境の中、**4期連続の増収増益**となり、**過去最高の業績**に。さらなる飛躍を目指し**グローバル展開**を強化します。

株主の皆様におかれましては、日頃より当社事業への厚いご支援を賜り、心より御礼申し上げます。ここに当社第60期(2020年8月1日から2021年7月31日まで)の営業状況をご報告させていただきます。ご一読の上、当社事業へのご理解とともに、今後の成長に一層ご期待くださいますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 **牧野 研二**



業界動向と当社販売推移

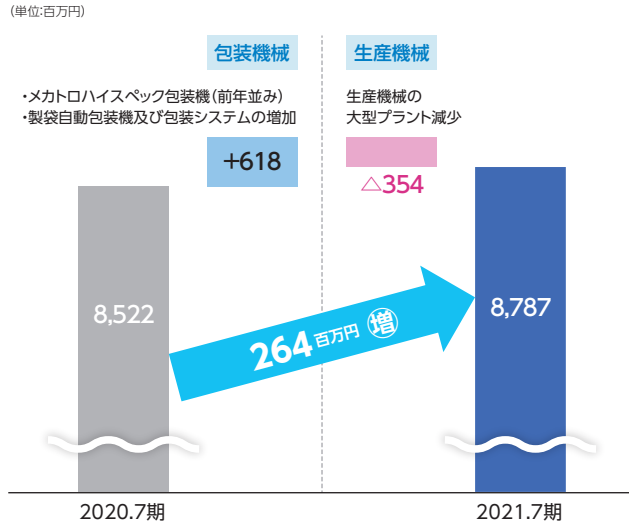
まずは、当社の主力事業であります「包装機械事業」と「生産機械事業」の事業環境と販売推移についてご説明いたします。

包装機械事業の業界動向は、経済産業省の「生産動態統計」によりますと、当社が位置づけられている、製袋充てん機の生産額は、直近の2021年7月期上期も、2020年7月期下期に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大の影響が続いていた時期であり前年同期の94.7%と減少しております。当社売上高についても同様に、前年同期比92.8%と新型コロナウイルス感染症拡大の

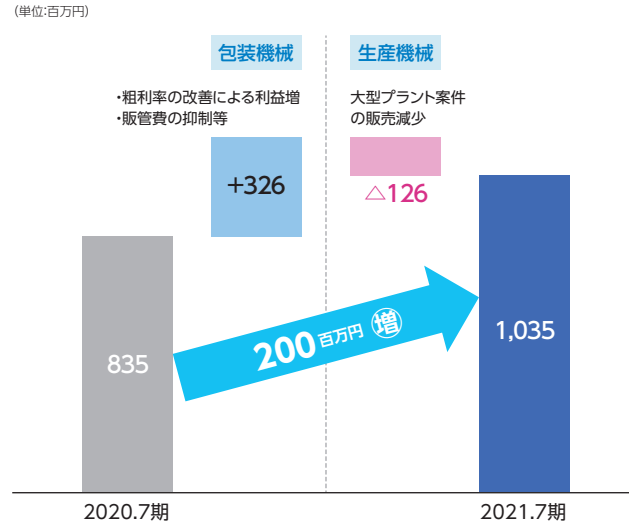
影響が長引いたこともあり、前年同期を下回りました。

生産機械事業の業界動向は、経済産業省の「生産動態統計」では、当社が位置づけられている、製パン・製菓機械の生産額は、直近の2021年7月期上期の生産額が前年同期の85.9%と減少しています。こちらも新型コロナウイルス感染症拡大の影響が続いているものと思われます。当社の生産機械事業につきましても、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で大型プラント案件の販売実績が減少したことに加え、海外案件において2021年7月期に売上予定だった案件が翌期へずれ込みが発生したことに伴い、前年同期を下回っております。

売上高 増減要因



営業利益 増減要因



2021年7月期の決算概況

2021年7月期決算は、売上高8,787百万円(前期比3.1%増)、営業利益1,035百万円(前期比23.9%増)、親会社株主に帰属する当期純利益741百万円(前期比30.5%増)となり、売上高から親会社株主に帰属する当期純利益まですべての項目で、過去最高だった前期実績を更新し4期連続の増収増益となりました。

売上高増加の主な要因としては、包装機械事業では、メカトロハイスペック包装機の販売実績が前年並みに推移したことに加え、製袋自動包装機及び包装システムの販売実績が増加したこと等に伴い、619百万円の増収となりました。生産機械事業では、大型プラント案件の販売実績が減少したこと等に伴い354百万円の減収となりました。

営業利益増加の主な要因としては、包装機械事業では、増収効果に加え売上総利益率が改善したこと及び販管費を中心に

経費が抑制されたこと等に伴い、326百万円の増益となりました。生産機械事業では、販管費を中心に経費が抑制されたものの、大型プラント案件の減少による減収が大きく影響し、126百万円の減益となりました。

第6次中期経営計画の初年度として

第6次中期経営計画(2021年7月期~2023年7月期)は、「さらなる躍進に向けグローバル展開の拡大を目指す」を基本戦略に掲げています。「顧客ニーズへの対応力強化と課題解決型営業の実践」を販売戦略の中心として、国内市場では包装機械・生産機械の事業連携により安定的な収益と成長を確保しつつ、安全・安心、環境配慮への対応を意識し、新規分野への進出、グローバル市場でのアライアンス強化、3極販売体制の確立に向けて取り組んでいます。

また、2021年8月2日付で米国イリノイ州において、子会社を設

立いたしました。これにより、米国市場における販売基盤の拡大を図るとともに既存顧客へのアフターサービスの充実に取り組んでまいります。

第61期の見通し

2022年7月期の業績見通しについては、売上高8,600百万円(前期比2.1%減)、営業利益746百万円(前期比27.9%減)、経常利益750百万円(前期比28.1%減)、親会社株主に帰属する当期純利益520百万円(前期比29.8%減)を予想しています。売上については、受注残高は前年並みに確保できているものの、新型コロナウイルス感染症の長引く影響により景気の先行き不透明感が増していることから、前期より減収を見込んでおります。利益については、減収の影響に加え、一部の低採算案件の影響による売上総利益率の低下、国内外の展示会展や訪問活動増加による販

売費の増加等を想定していることから、前期より減益を見込んでいます。

株主様へのメッセージ

2021年7月期の期末配当につきましては、1株当たり普通配当35円に創業60周年の記念配当10円を加え、計45円に増額することといたしました。すで実施している、1株当たり中間配当金25円と合わせて、1株当たり年間配当金は70円を予定しています。

当社は食品や医薬品を安全・確実に包装する技術を通じて、より大きな社会貢献を果たせるよう、一層の努力を重ねるとともに、業績の向上と企業の健全性に努めていきたいと考えております。

株主の皆様におかれましては、今後とも当社事業への継続的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

株主還元方針 株主の皆様への積極的な利益還元を図ることを基本方針として、連結配当性向30%または連結純資産配当率(DOE)2%を目安に、安定配当を堅持しつつ、業績動向を見ながら配当金の増加を目指しています。



おかげさまで創業60周年 ～これまでも、これからも～

サステナビリティへの取り組み

当社は今年12月に1961年の創業から60周年を迎えます。

これも株主様、お取引先様、関係者の皆様方のご愛顧、お力添えのおかげでございます。改めまして厚く御礼申し上げます。

ゼネラルパッカーのサステナビリティ ①

食品のロングライフ化に向けての取り組み

鯉節の長期保存

保存食としての鯉節は、あらかじめ削っておくと手間と時間を省くことができますが、短時間で風味が損なわれてしまうことが課題でした。その課題の解決につながったのが、全自動ガス充填包装機でした。鯉節業界にて当社の製品が広まり、フードロス削減の一助となりました。



1975年

全自動ガス充填包装機 (GP-VG-50型)

特徴

鯉節ミニパックを対象にした本格的な真空チャンバー方式で、自動搬送から真空脱気、窒素充填までをこなす全自動充填包装機として開発しました。ヒット商品となり、この機種によって削り節業界に進出しました。



2002年

GP-GS2H型

特徴

鯉節削りが7カ月以上も風味や色合いを保ち、鯉節業界に旋風を巻き起こしたのがガス充填ロータリー方式給袋自動包装機GP-GSシリーズ。業界に貢献したことが評価され、日本食糧新聞社主催の「第5回日食優秀食品機械資材賞」機械部門を受賞しました。

ペットフードの長期保存

海外のペットフードメーカーより包装時の酸素濃度を5%以下にし、仕上がりが美しくというオーダーがあり、2006年にペットフード用重袋包装機を開発しました。不活性ガスの充填によりペットフードの賞味期限が伸び、シールの美しさも評価され高級ペットフード生産用として使用されています。



2006年

GP-356ST型

特徴

2006年からチャック付きガゼット袋に対応するペットフード用包装機を開発、納入しました。

ゼネラルパッカーのサステナビリティ ②

製品ロス、フードロス削減への取り組み

非破壊検査によるロス削減

SDGsの17の目標の一つに「12.つくる責任 つかう責任」があります。持続可能な消費と生産のパターンを確保することが求められ、その一つとして食品ロスを削減することは持続可能な社会を構築する上で大切なことと考えます。当社の扱うGPX1500型は、非破壊で食品包装中の酸素濃度を測定でき、食品やサンプルのロス削減に貢献できます。

特徴 1

非破壊検査

針を刺す従来の測定器と違い、レーザー透過を用いることで非破壊での酸素濃度測定を可能にしました。非破壊なので、サンプルを無駄なく生産ラインに戻すことができます。シール付きトレイや熟成形品、バッグなどの透明パッケージにて使用可能な上、何度でも測定でき商品の経時変化も見られます。

2021年

GPX1500型



特徴 2

簡単ワンタッチ計測

製品を測定ヘッドに近づけ、ワンタッチで残存酸素濃度の測定を開始します。パッケージの状態での迅速かつ簡単なテストが可能で、結果はすぐ画面に表示され、内部に記録されます。検査するためのレーザーはクラス1のレーザーを使用しており、安全性も確保しています。

当社はSDGsを始めとするサステナビリティには長い歴史の中で早い段階で取り組んでいたこととなります。これからも社会の要請にお応えできるよう、これまでに培った独自技術を発展させ、さらなる開発に取り組んでまいります。

経営成績に関する定性的情報

当連結会計年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響による経済活動の制限により、個人消費の低迷や企業収益及び雇用・所得環境の悪化がみられるなど、景気は厳しい状況で推移いたしました。

このような状況のなか、当社グループは「連結グループの安定成長基盤整備の時期」と位置づけた第6次中期経営計画（2021年7月期～2023年7月期）を策定し、さらなる成長に向けて、グローバル展開の拡大とグループ会社間の事業連携強化を重要課題として取り組んでまいりました。

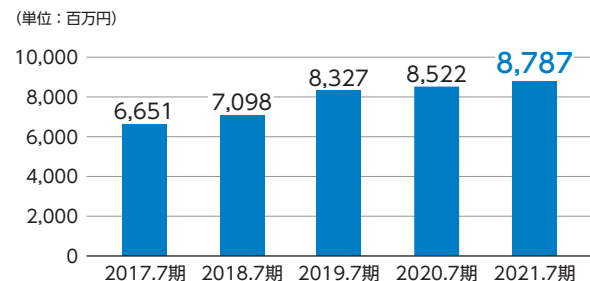
当連結会計年度における売上高は、新型コロナウイルス感染症の影響により、生産機械事業では海外案件において当初計画では

当期の売上予定としていた案件の次期へのずれ込みが発生したこと等により減収となったものの、包装機械事業においては顧客の設備投資需要が堅調に推移し増収を確保できたことから、前連結会計年度に比べ264百万円の増収となり、4期連続の増収となりました。利益につきましては、包装機械事業における増収効果及び売上総利益率の改善、グループ全体での販売費を中心とした経費抑制等により、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益はいずれも前連結会計年度に比べ増益となり、過去最高益を達成いたしました。

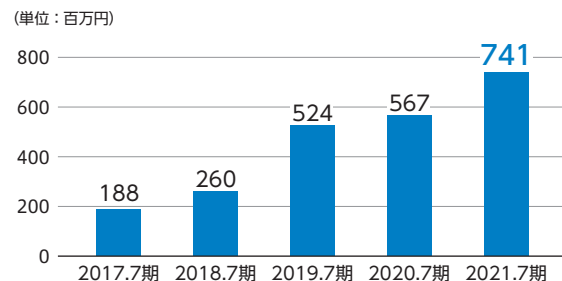
セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

包装機械事業は、売上高は8,053百万円、営業利益は1,092百万円となりました。また、生産機械事業は、売上高は737百万円、営業損失は57百万円となりました。

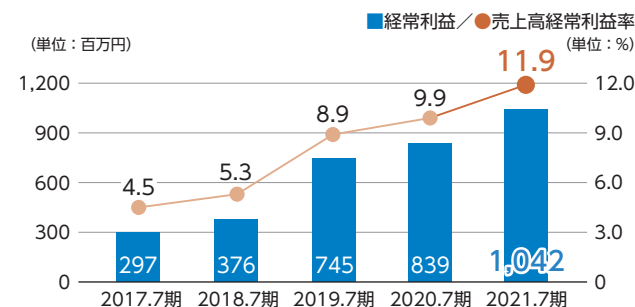
売上高



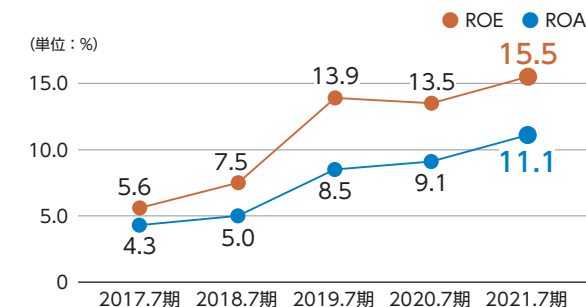
親会社株主に帰属する当期純利益



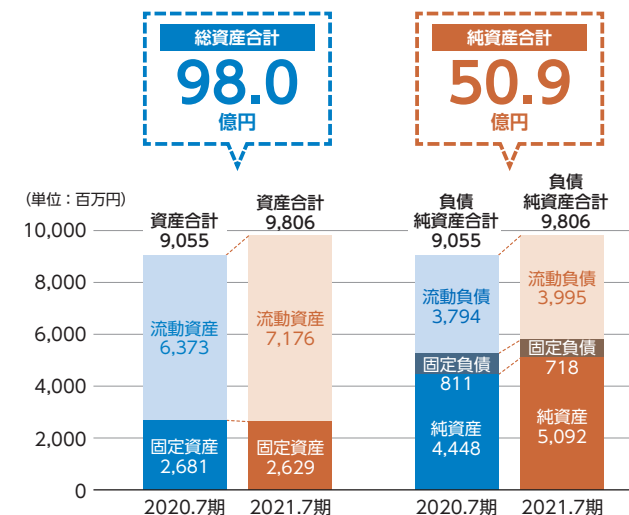
経常利益／売上高経常利益率



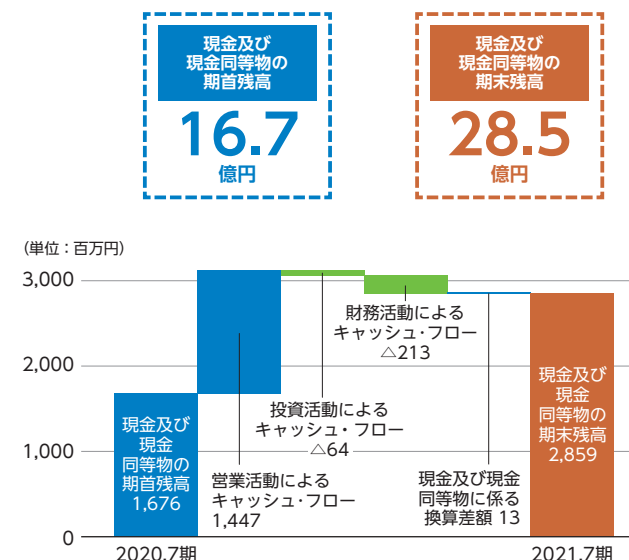
ROE／ROA



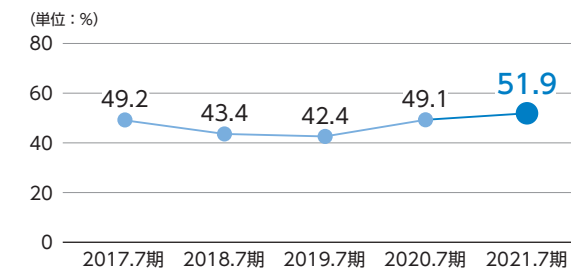
財務状況



キャッシュ・フローの推移



自己資本比率



財務分析

当連結会計年度における資産合計の増加した主たる要因は、棚卸資産が298百万円、無形固定資産が83百万円、それぞれ減少したものの、現金及び預金が1,182百万円増加したこと等によりです。負債合計の増加した主たる要因は、借入金105百万円減少したものの、未払法人税等が134百万円、前受金が65百万円、それぞれ増加したこと等によりです。純資産合計の増加した主たる要因は、利益剰余金が633百万円増加したこと等によりです。

キャッシュ・フロー分析

営業活動の結果得られた資金は1,447百万円(前期は35百万円の獲得)となりました。収入の主な内訳は、税金等調整前当期純利益1,066百万円、たな卸資産の減少額301百万円、減価償却費88百万円等であり、支出の主な内訳は、法人税等の支払額246百万円等であり、投資活動の結果使用した資金は64百万円(前期比77.2%減)となりました。収入の主な内訳は、投資有価証券の売却による収入38百万円等であり、支出の主な内訳は、有形固定資産の取得による支出61百万円、関係会社出資金の払込による支出29百万円等であり、財務活動による資金の増減は213百万円(前期比77.2%減)となりました。

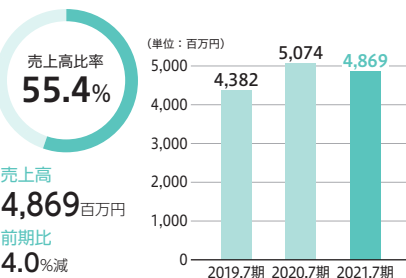
包装機械



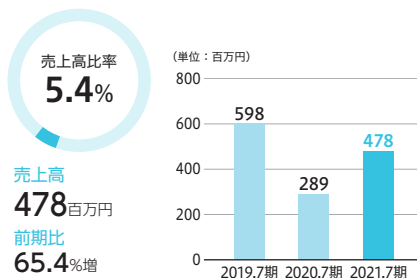
包装機械事業におきましては、メカトロハイスパック包装機の販売実績が前期並みに推移したこと等から、売上高は8,053百万円(前期比8.3%増)、営業利益は1,092百万円(前期比42.6%増)となりました。



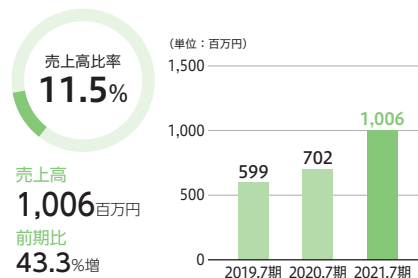
給袋自動包装機(ガス充填自動包装機含む)



製袋自動包装機



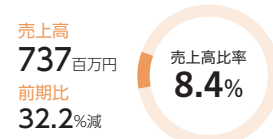
包装関連機器等



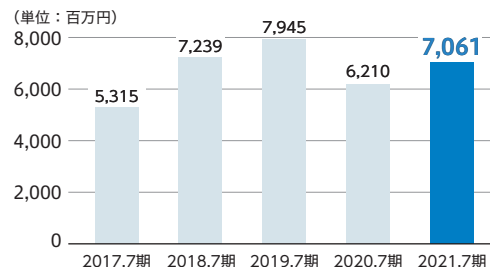
生産機械



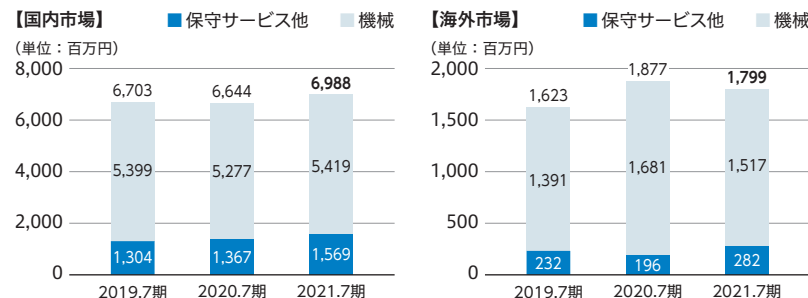
生産機械事業におきましては、大型プラント案件の販売実績が減少したこと等から、売上高は737百万円(前期比32.2%減)、営業損失57百万円(前期は営業利益68百万円)となりました。



機械受注高



エンドユーザー国内・海外売上高(包装機械・生産機械合計)



会社概要

商号	ゼネラルパッカー株式会社
英文社名	GENERAL PACKER CO., LTD.
設立	1966年2月(創業 1961年12月)
資本金	2億5,157万7千円
事業内容	各種自動包装機械及び周辺装置の製造・販売、食品製菓機械の製造・販売
従業員数	195名(連結) 160名(単体)
本社・工場	〒481-8601 愛知県北名古屋市宇福寺神明65番地 Tel.(0568)23-3111(代) Fax.(0568)22-3222
東京営業部	〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町3-5-8 KDX神田北口ビル4F Tel.(03)3256-3891(代) Fax.(03)3256-3893
子会社	オサ機械株式会社 蘇州日技通用包装机械有限公司 General Packer America (2021年8月設立)
関連会社	錦通日技包装科技(江蘇)有限公司

(2021年7月31日現在)

役員

代表取締役社長	牧野 研二	オサ機械(株) 代表取締役
取締役	水野 智之	
取締役	安藤 正行	オサ機械(株) 取締役
取締役	塚本 真也	オサ機械(株) 代表取締役社長
取締役	杉田 篤紀	オサ機械(株) 監査役
社外取締役(監査等委員)	福井 義雄	
社外取締役(監査等委員)	村橋 泰志	
社外取締役(監査等委員)	浅井 一郎	
社外取締役(監査等委員)	森田 卓寿	
取締役(監査等委員)	小関 幸太郎	オサ機械(株) 監査役

(2021年10月22日現在)

株式の状況

発行可能株式総数	5,600,000株
発行済株式総数	1,798,800株
株主数	639名

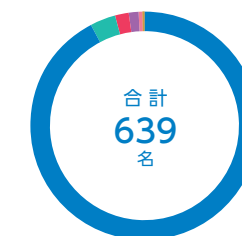
(2021年7月31日現在)

大株主

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
株式会社FAMS	270,000	15.03
ゼネラルパッカー従業員持株会	231,800	12.90
ゼネラルパッカー取引先持株会	86,100	4.79
MSIP CLIENT SECURITIES	86,000	4.78
株式会社りそな銀行	78,400	4.36
高野 季久美	77,800	4.33
田中 かな	73,300	4.08
梅森 輝信	53,700	2.98
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	47,885	2.66
島末 孝法	39,200	2.18

(2021年7月31日現在)

株主数構成比



個人・その他	株数	比率
個人・その他	590名	92.3%
その他法人	24名	3.8%
証券会社	12名	1.9%
外国人	9名	1.4%
金融機関	3名	0.5%
自己名義	1名	0.1%

株式数構成比

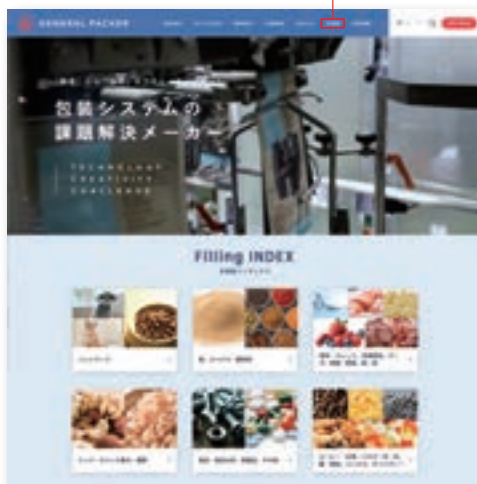


個人・その他	株数	比率
個人・その他	1,220,545株	67.9%
その他法人	338,790株	18.8%
金融機関	127,085株	7.0%
外国人	93,005株	5.2%
証券会社	17,904株	1.0%
自己名義	1,471株	0.1%

IRサイトでも、詳しい情報を提供しています。

当社ホームページでは、新着情報、会社情報、商品情報、IR情報等、様々な情報をご提供しています。今後も皆様にお役立ていただけるよう掲載情報の一層の充実を図ってまいります。

▼トップページ



▼IRページ



主なコンテンツ

経営方針・戦略

当社の企業ビジョンや中期経営計画、CSR情報などをご覧いただけます。

決算・IR資料室

アナリスト向けの決算説明会の様子が動画でご覧いただけます。

個人投資家の皆さまへ

業界情報や事業内容や特長、配当についてわかりやすく解説しています。

<https://www.general-packer.co.jp/ir/>

株主メモ

事業年度	8月1日から翌年7月31日まで
定時株主総会	10月
基準日	定時株主総会 7月31日
	期末配当金 7月31日
	中間配当金 1月31日
	その他あらかじめ公告する一定の日
株主名簿管理人	東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社

同事務取扱場所	〒103-8202 東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社 本店
お問い合わせ先	〒168-8620 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 日本証券代行株式会社 代理人部 Tel. 0120-707-843 (フリーダイヤル)
公告方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
公告掲載URL	https://www.general-packer.co.jp/



包装システムのトータルプランナー
ゼネラルパッカー株式会社
 本社・工場
 〒481-8601 愛知県北名古屋市宇福寺神明65番地
 Tel. (0568) 23-3111 (代) Fax. (0568) 22-3222
 東京営業部
 〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町三丁目5番地8 KDX神田北口ビル4F
 Tel. (03) 3256-3891 (代) Fax. (03) 3256-3893

各種手続きのお申出先
 ・未払配当金のお支払いについては、株主名簿管理人にお申出ください。
 ・住所変更、単元未満株式の買取、配当金受取方法の指定等
 証券保管振替機構(ほふり)をご利用の株主様は、お取引の証券会社へお申出ください。
 証券保管振替機構(ほふり)をご利用でない株主様は、特別口座の口座管理機関である日本証券代行株式会社へお申出ください。

